

「手を洗うことの大切さ」

鹿児島県立錦江湾高等学校二年

岸下 きしした ななみ

私は手洗いが好きだ。もともと手の温度が高いこともあって、そう思う。冷たい水に自分の生ぬるい手が触れる瞬間、気持ちがいい。もちろん冬は寒いのだが、それでも手洗いが好きだ。

コロナウイルスが流行している今、手洗いはこれまで以上に重要性が増した。振り返れば、今まで学校では「給食を食べる前には手洗いをしましょう。」や「トイレを済ませたら手洗いをしましょう。」などのような呼びかけだけだった。また、私たちもそれだけしか手洗いに関心がなかった。しかし、この御時世ではそのような呼びかけだけしかしていない学校はないと断言できるだろう。私たちの学校でも保健委員会が中心となってコロナウイルスの感染拡大防止の呼びかけが行われている。その中でも、もともと手洗いが好きなの私にもっと手洗いの魅力を教えてくれたものがあった。それは、学校のトイレの壁に貼ってある、手洗いによってどれだけのウイルスがいなくなるのかが詳しく書かれた貼り紙であった。

手洗いを流水で十五秒すすぐだけで終わると、約百万個の菌が洗い流されずに残留しているが、ハンドソープを使って手洗いをした後に流水で十五秒すすぐと、残留する菌は、約一万個まで減少するという内容のものであった。手洗いとは、なんと素晴らしい行いだろうか。手洗いの重要性をこれまで以上にも増して知った私は「手洗い」という一つの行動に感激したあまりに毎休み時間にハンドソープを使って手洗いをした。私の手に付着していた菌が流されていく。減っていく。そう実感しながら手洗いをしたこともあった。

コロナウイルスが流行し始めてから約一年半も経過した今、日本では、一日あたりの新規感染者数の平均は約四千五百人。感染拡大防止対策についてまだまだ油断はできない。もとの生活に戻りたいと、きつと世界中の人々が思っているはずだ。こんな状況だからこそ、私は大勢の人に手洗いの重要性を伝えたい。そして、私のように率先して手洗いをしようという前向きな気持ちを持つてほしい。

手洗いをすると、私たちの手に付着した菌が流され、減少していく。それによって、私たちの健康が守られる。コロナウイルス収束後の人々の笑顔にもつながる。だから私は、これからも手洗いを続けて行い、手洗いの魅力について沢山の事を知っていかうと思う。